

やまぐちっ子 学力向上だより

第 6 7 号 H27.9.2
山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査の結果

「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。今回の「やまぐちっ子学力向上だより」では、平成27年度調査の山口県の状況を中心にお知らせします。各学校の分析や校内研修、保護者や地域の方への情報提供等の参考として活用してください。

全体の結果

全体の結果については、次のとおりです。（詳しくは別添「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について」を参照してください。）

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/zen-gaku/20111104001.html>

- 平均正答率を山口県と全国とで比べると、小学校は、国語、算数のA・B、理科の全区分で全国平均を上回る結果である。中学校は、国語、数学のA・B全区分で全国平均を上回り、理科は全国平均と同じである。

教科の結果

【小学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	72.1	70.0
国語B	67.5	65.4
算数A	77.1	75.2
算数B	46.4	45.0
理 科	62.7	60.8

【中学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	76.4	75.8
国語B	66.3	65.8
数学A	65.3	64.4
数学B	42.4	41.6
理 科	53.0	53.0

この結果は、子どもたちの努力はもちろんのこと、授業改善をはじめとした学校の組織的な取組やコミュニティ・スクール等を活用した取組など、学力向上に向けた取組が充実しつつあり、その成果が現れたものであると捉えています。

今回の調査結果から、改めて、子どもたちに必要なことは何か、知恵を出し合い、学校・家庭・地域が一体となって取組を進めていくことが大切だと考えています。

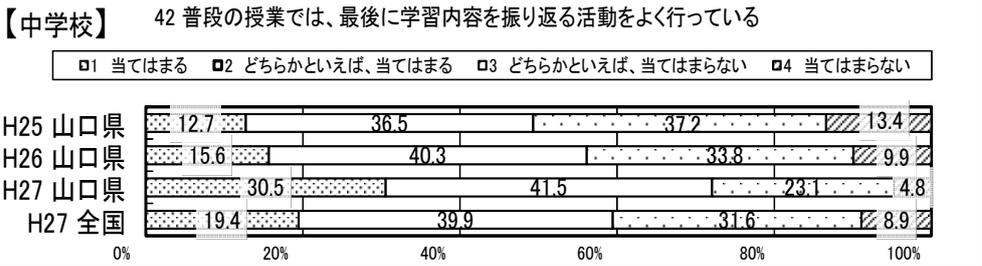
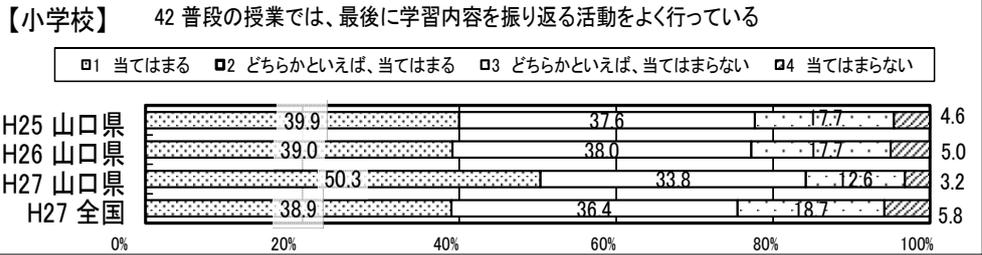
児童生徒質問紙の結果

望ましい状況

自己肯定感	○自分にはよいところがあると思う子どもの割合 ○将来の夢や目標を持っている子どもの割合
授業	○授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う子どもの割合 ○授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったと思う子どもの割合 ○自分たちで課題を立てて解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動をよく行ったと思う子どもの割合
地域の一員として	○地域の行事に参加している子どもの割合 ○人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合

学習内容を振り返る活動について

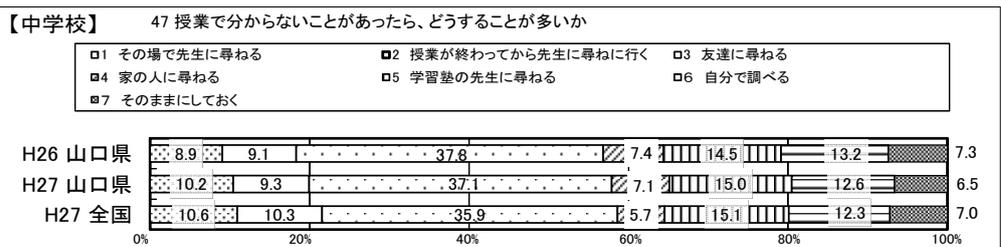
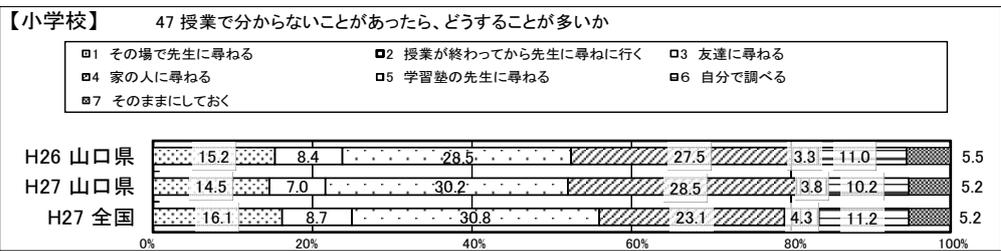
○ 「普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている」と回答した子どもの割合が大きく伸びています。今後も振り返りの活動の一層の充実を図ることが大切です。



家庭学習	● 平日の学校の授業時間以外での学習時間について、1時間以上学習する子どもの割合（中学校）
生活習慣	● 平日に1日当たり2時間以上テレビ等の視聴をする子どもの割合（小学校）
学習状況	● 授業で分からないことがあったときに、先生や友達に尋ねる子どもの割合 (分からないことをそのままにしていると回答した子どもが小学校では5.2%、中学校では6.5%)

分からないことがあったときの対応について

● 「授業で分からないことがあったら、どうすることが多いか」については、先生に尋ねる割合が全国よりも低いことや、分からないことをそのままにしておく子どもがいることなど、気になる回答状況が見られます。分からないことに直面したとき、適切な解決方法を選択し、最後まで粘り強く課題に取り組むよう指導することが大切です。



各学校においては、今回の結果に満足することなく、**年2回の検証改善サイクル**を確立する中で、子どもたちの力が一層発揮できるように、**子どもたちの状況に応じた取組**を**全校体制**で進めていきましょう。

学校の組織的な取組例



本校の子どもたちは、自由記述は得意なのですが、理由や根拠を明確にして自分の考えを書くことが苦手ですね。

例① 日常の授業における工夫

- ・各教科等で、すべての子どもたちが理由や根拠を添えて自分の考えを説明したり、伝えたりする学習場面を、毎時間設定してみましょう。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていますが、理由や根拠を明確にするなどの条件を与えて記述させてみませんか。
- ・子どもが書いたものにコメントや評価等、朱書きを入れることも大切です。子どもも達成感や成就感を味わうことができますし、子どもの書いたものを次の時間に紹介したり、授業展開に生かしたりするなどの工夫もできますね。
- ・授業研究の一つの視点として、自分の考えを表現したくなるような学習場面の工夫や、発問の工夫、振り返り活動の工夫等を設定してみてくださいでしょうか。



例② 校内研修における工夫



授業で分からないことがあったとき、先生や友達にあまり尋ねてないようです。

- ・授業中に教え合う場面や、分からないことを表出する場面を設定するとよいですね。



分からないことを尋ねやすい教師と子どもの関係づくりや、子ども同士の関係づくりも大切ですね。

例③ 補充学習への取組

- ・授業で分からなかったことやできなかったことを学び直す機会を設けたいですね。
- ・補充学習や学習支援等に、保護者や地域の方の力を借りられるとよいですね。



例④ コミュニティ・スクール等の活用



そのためには、学校運営協議会等で、どのように今回の調査結果を説明・活用すればよいでしょうか。

- ・本校が特に力を入れていきたい内容については、実際の問題を掲載したり、結果をわかりやすいグラフで示したりする等、ビジュアルを重視した資料の提示は効果がありますね。
- ・文部科学省が提供している結果チャートは、子どもたちの状況が一目でわかります。結果チャートから、今後の方針や取組を協議したり、提案したりしてみてはいかがでしょうか。
- ・保護者や地域の方に協力してほしいことは、具体的に示す必要がありますね。

